

## 万年筆あれこれ

大津 隆文

先日探しものをして机の引出しをひっくり返していたら、万年筆が四本出てきた。懐かしい思いがした。すっかり使わなくなつて何年経つのだろうか。

初めて万年筆を手にしたのは中学校へ進学した時だ。親から入学祝いとして受け取つた時は、少し大人になつたようで本当に嬉しかつた。その後英語では fountain pen というと知つて、成る程と思つた。

実際によく使つようになったのは就職してからで、パイロット万年筆でペン先に18K とあるのを内心誇らしく思つていた。苦い思いをしたのは胸の内ポケットに挿してインクを漏らしてしまい背広を台無しにしたことだ。

当時ボールペンが出始めていたが、まだ広く認知されておらず、後輩から就職時に提出する保証書のサインが万年筆ではなくボールペンでもいいでしょうか、と相談を受けたことがあつた。

四本の中で一番のお気に入りはモンブランの万年筆。これは四十年近く前一九一〇一から帰国する時、秘書から鑑別にもらつた品で、少し太めで持ち心地がとても良い。大切なサインをする時や、年賀状にひと書き足す際に使つていて、いつの間にかお蔵入りしてしまつた。

最近ペンをよく田にするのはトランプ大統領がサインするシーンだ。しかしあれは万年筆というより芯がフェルト製のサインペンのようだ。

いずれにしても重要な署名は万年筆でして、ブロッター(吸い取り紙)をぐるんと押すというのがサマになるような気がするのは、單なる郷愁であろうか。

最近聞いた娘の話。小学生の孫の鉛筆の持ち方が良くないので、学校の先生に相談したこと。先生は、ご家庭での指導が第一ですが、学校としても協力させていただきます、ただし本人にとっては辛くストレスも大きいことでしょう、今はペンを使つことが多いですが、これから中学、高校と上がつていふにつれ、書くよりタッチすることの方が多くなつていふとも考慮してい判断さればどうじようか、と述べられた由。本当に世の中は変化し続けている。